

①ユニバーサル (共生)

支える人と支えられる人という一方向の関係性を超え、双方向に支え合うこと  
(障壁や困難の解消(時間・季節を問わず)、格差の是正、機会の均等、  
交流の促進、包摂性、心のバリアフリー、自然との共生など)

②ウェルネス (健康)

誰もが幸せを感じながら生活し、生涯現役として活躍できること  
(身体的な健康、精神的な健康、社会的な健康など)

③スマート (快適・先端)

新たな価値や可能性の創出に向けて、多くの人が挑戦していること  
(先端技術等の活用による快適性・利便性や生産性の向上、  
人材の育成、「スタートアップ」、「ゼロカーボン」など)

●まちが成熟期を迎え、個々の価値観が多様化する中、地域コミュニティなどにおいては、年齢や性別、障がいの有無、文化、民族、国籍に対する心のバリアフリー①や、これらの違いを超えた交流①が進んでいることが重要。

●また、一人一人が地域コミュニティを育み、大切にすることを意識を持ち①、ライフスタイルに合わせてまちづくり活動に参加できるとともに②、担い手の育成が進んでいること③が重要。

SWOT	Strengths	Weaknesses	Opportunities	Threats
S×O	・市民愛着度の高い市民の多さ		・価値観やライフスタイルの多様化	
W×O		・町内会加入率の低下(地域意識や人間関係の希薄化)	・価値観やライフスタイルの多様化 ・人生100年時代の到来、ライフシフト	

■基本目標6 互いに認め合い、支え合うまち

※年齢・性別・障がいの有無・国籍・民族・文化の違いを超えて互いに認め、支え合う、心のバリアフリーを推進する観点を強化  
対応する現目標1 共生と交流により人と人がつながるまち

■基本目標7 誰もがまちづくり活動に参加できるまち

⇒(修正案)誰もがまちづくりに関心を持ち、参加できるまち

※地域コミュニティを育み、大切に、ライフスタイルに合わせながら、誰もがまちづくり活動に参加できる観点を強化  
現目標2、3を一本化

■第2回審議会でいただいたご意見

- 「まちづくりに参加」という言葉は後ろ向きに感じるので「参加」より主体的な表現が良い、「地域コミュニティを育むまち」というような市民が主体的な表現が必要(吉岡委員)  
⇒基本目標7を「誰もがまちづくりに関心を持ち、参加できるまち」と変更するとともに、目指す姿に「誰もが地域コミュニティを育み、大切に」旨を明記し、市民の主体性を強調
- 札幌は様々な人がいるので多様な考え方がある中、基本目標の中で、誰もが、互いにという言葉強く押し出しているのは良いと思う(佐藤理委員)

基本目標6 互いに認め合い、支え合うまち

■目指す姿 **案**

1 年齢・性別・障がいの有無・国籍・民族・文化など、様々な個性・特性を互いに認め合い、尊重し合う、平和で包摂的な社会となっています。

- ※「多様性への理解促進」や「人権尊重」、「平和事業の推進」の観点を記載。
- ※「子どもの権利」については、子ども・若者で記載。

2 世代や国籍を超えた交流や趣味を通じた交流などにより市民のつながりが深まり、相互の信頼や協力が得られる社会が形成されています。

- ※「多様な交流の推進（多世代交流や高齢者の交流、国際交流）」の観点を記載。

■私たちが取り組むこと **案**

目指す姿	市民・企業など	行政
1          etc	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な個性・特性への理解</li> <li>・様々な個性・特性を互いに認め合い、支え合う取組の実践【新規】</li> <li>・平和の尊さへの理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な個性・特性への理解促進</li> <li>・平和の尊さの理解促進</li> </ul> etc
2          etc	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流活動等への積極的な参加</li> <li>・交流の場の提供や活動の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多世代交流や高齢者の交流促進</li> <li>※高齢者の交流促進の観点【レベ】</li> <li>・外国人市民との交流促進</li> <li>・国際交流の推進</li> <li>・交流活動等への支援</li> </ul> etc

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 今後は、一人一人の個性や違いを理解するだけでなく、支える人と支えられる人という一方向の関係性を超え、双方向に支え合うという視点がこれまで以上に重要となる中、年齢や性別、障がいの有無、国籍、民族、文化などにかかわらず、多様性を尊重できる社会になっていることが重要。
- 戦争・被爆の経験者が高齢化・減少し、戦争・被爆の記憶が薄れていく中、その経験を次世代に継承し、平和の尊さに対する関心や意識の向上に取り組むことが必要。
- 単身高齢者世帯の増加が予想されており、「社会的つながり」の薄さが、生きがい喪失や自立低下などをもたらすことが懸念される中、多世代の交流や高齢者同士の交流などにより、市民同士のつながりが深まり、相互の信頼や協力が得られる地域が形成されていることが重要。
- 留学生や技能実習生など外国籍市民数が増加するなど、地域の構成員が多様化してきている中、外国人市民との交流促進が重要。また、姉妹・友好都市を始め海外諸都市等との都市間交流により相互理解を深め、国家間の政治情勢等に左右されない信頼関係を築き、世界平和と世界との親善に貢献していく必要。

■第2回審議会でのいただいたご意見

- 共生社会の実現に向けては、多様な人がいて当たり前環境に慣れること、そのためにも、建物のバリアをなくすこと、心のバリアフリーの推進、お互いを認め合い  
知ることが、大前提だと思う（牧野委員）。

## 【地域】基本目標7 誰もがまちづくりに関心を持ち、参加できるまち

### 基本目標7 誰もがまちづくりに関心を持ち、参加できるまち

#### ■目指す姿 **案**

1 誰もが自身のライフスタイルに合わせながらまちづくり活動に参加し、支えあいながら地域の課題を解決しています。

※「市民まちづくり活動や地域福祉活動への参加」や「担い手の育成・確保」、「地域マネジメントの推進（区役所やまちづくりセンターの機能等）」などの観点を記載。

2 誰もが身近なものとして市政に関心を持ち、積極的に参加しています。

※「市政情報の発信」や「市政への参加促進」の観点を記載。

3 誰もが地域コミュニティを育み、大切にし、地縁による団体（町内会・自治会）が地域コミュニティの中核として生き生きと活動しています。

※地縁による団体への「理解や関心向上」や「人的・経費的負担の軽減」、「活動促進」の観点を記載。

4 地縁による団体（町内会・自治会）、NPO、商店街、企業など多様な主体が参画し、地域に密着したまちづくり活動が進んでいます。

※「多様な主体によるまちづくり活動促進（NPO、商店街、企業の地域貢献等）」の観点を記載。

#### ■私たちが取り組むこと **案**

目指す姿	市民・企業など	行政
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくり活動への理解や関心の向上</li> <li>まちづくり活動への積極的な参加や実践</li> <li>地域の特性や課題を自ら把握し、考える意識の向上【新規】</li> <li>地域課題の解決に向けた取組の推進</li> </ul> etc	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくり活動の担い手の育成・確保への支援</li> <li>まちづくり活動や活動への参加の促進</li> <li>寄付文化の醸成</li> <li>地域課題の掘り起こしや情報発信</li> </ul> etc
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>市政への理解や関心の向上【新規】</li> <li>市政への積極的な参加【新規】</li> </ul> etc	<ul style="list-style-type: none"> <li>市政の積極的な情報発信【新規】</li> <li>市政への参加促進【新規】</li> </ul> etc
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域コミュニティの意義や重要性の理解と関心向上【新規】</li> <li>地域コミュニティ活動への積極的な参加や実践</li> </ul> etc	<ul style="list-style-type: none"> <li>地縁による団体への加入促進への支援や人的・経費的負担の軽減等【新規】</li> <li>地域コミュニティの活動促進</li> </ul> etc
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な主体によるまちづくり活動への積極的な参加や実践</li> <li>まちづくり活動における他団体との連携</li> </ul> etc	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域特性を生かした活動の促進</li> <li>官民連携の環境づくり</li> </ul> etc

#### ■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 寄付を通じた間接的なまちづくり活動への参加は浸透してきているものの、防災訓練や健康づくり活動など、自発的に行う活動への参加には課題があり、元気な高齢者のまちづくり活動への参加促進や寄付文化の更なる醸成等を通じて、誰もが地域のまちづくり活動や地域福祉活動に参加し、地域の課題を解決していることが重要。
- 市政への参加しやすさに必要なこととして「参加の機会に関する情報がより分かりやすく、入手しやすくなること」が高くなっており、市政情報等のターゲット別（年代や分野など）の発信強化等（出し手本位の広報から、受け手本位の広報への変革）を通じて、市民や企業の市政への理解や関心が向上し、市政に積極的に参加していることが必要。
- 地域コミュニティ活動を担う団体として町内会が重要と認識されているものの加入率は緩やかに減少しており、地縁による団体の持続的なまちづくり活動を可能とする基盤強化が必要。また、民間事業者のビジネス活動を市政課題解決につなげる官民連携の促進等により、多様な主体が地域に密着したまちづくり活動を推進していることが重要。

#### ■第2回審議会でもいただいたご意見

- 住民の主体的な活動が重要であるし、行政による情報発信に期待（尚和委員）。
- 現ビジョンには地域課題を解決すると掲げているが、市民が地域課題を把握できるようにすることが重要と考えるので、市民自ら考えるという言葉を入れて欲しい（佐藤理委員）。
- 高齢者といっても元気でまだまだ活躍できる生産性を持った素晴らしい方もたくさんいるので、生涯現役でこれを活かせる場所も必要（牧野委員）。